

## まえがき

埼玉県衛生研究所は、埼玉県における衛生行政の科学的・技術的中核機関として、各種検査、調査研究、感染症などの疫学情報の収集・解析・提供、専門研修の企画・開催等を行っています。

本報の対象年度である令和元年度は、前半に前年度からの麻しんの流行がみられました。また9月～10月にかけて県内でラグビーワールドカップが3試合行われ、感染症強化サーベイランスを実施したほか、東京オリンピック、パラリンピックに向けた感染症強化サーベイランスプレテストを実施しました。

食品衛生については、昨年度、細菌性食中毒が多発する夏季における生食用の野菜・果物の微生物検査の実施や、食品用器具及び容器包装のポジティブリスト制度の導入に向け検査機器の整備を行いました。

このほか、9月には埼玉県内で初めて豚熱(CSF)が発生し、防疫活動の支援のため24時間対応で獣医師をはじめとする職員の派遣を行いました。

一方、中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発生に伴い、1月以降、検査体制の確保をはじめとする様々な対応に迫られることとなりました。ウイルス担当では所内各担当からの応援体制を組み、令和2年11月30日現在、疑い患者等20,449人(20,905件)、陰性確認1,296人(1,309件)のPCR検査を実施してきたところです。また感染症疫学情報担当では民間PCR検査結果も含め県内発生例について原因等の分析を行い、解析情報の提供に努めているところです。今後もCOVID-19への対応がしばらく続くと思われます。なお、新型コロナウイルス検査では通常のリアルタイムPCR検査のみならず、今後は次世代シーケンサー(NGS)等の高度検査機能を活用した解析、ウイルス培養検査など検査体制の強化に努めていく所存です。

今後とも、感染症対策及び食品衛生対策のみならず、公衆衛生分野の行政ニーズに的確に応えられるよう努めてまいりたいと思います。

本号では、令和元年度における各担当の業務実績や調査研究の実施状況(研究事業報告1編、調査研究3編、資料18編)を収録しました。御活用いただければ幸いです。

令和3年1月

埼玉県衛生研究所

所長 本多 麻夫